



# 高市発言を考える：薩摩川内の友好交流にも影が？

高市首相が「台湾有事は存立危機事態」と述べた問題が、国際社会に衝撃を広げています。日本共産党の志位和夫議長は香港フェニックステレビのインタビューで、「発言を撤回する以外に緊張を解く道はない」と主張しました。一見すると国政や外交の話のようですが、地域で暮らす私たちにとっても無関係ではありません。

薩摩川内市は、中国・常熟市との友好交流を長年積み重ねてきました。行政や経済団体の交流、青少年の訪問団、人材・教育分野での研修など、市民同士が結び合ってきた実績があります。さらに、介護や農業、製造業などを支える外国人技能実習生や留学生には中国出身者が多く、地域の担い手として生活しています。人口減少と人手不足が進む中、こうした人材は地域にとって貴重な存在になっています。

揺らぐ時、傷つくのは地域の暮らしや産業に影響が及びます。人材の確保が止まったり、経済の取引が滞ったり、観光が冷え込むことが想定されます。平和が

にも基づいています。地方の暮らしです。志位議長が「政治問題を経済や人的交流にリンクさせてはならない」と中国側に求めた理由は、こうした生活感覚

## 市民がつどう「平和コンサート」（9条の会・いきりき） —歌い、語り、平和を感じるひととき—

戦後80年を迎えた今年、全国各地で平和の取り組みが広がっています。ここ薩摩川内でも、九条の会・いきりきが毎年続けてきた「平和コンサート」が、今年も笑顔で開催されます。地元で親しまれているギターグループ「チャッピーズ」が出演し、心あたたまる音色と歌声がホールに響きます。みんなで歌って踊って楽しめるコーナーもあり、音楽を通じて体も心もほぐれる時間が用意されています。さらに、野菜販売や豚汁とごはんのふるまいもあり、地域のつながりを味わえる企画です。

九条の会・いきりきは、「平和のありがたさを感じながら、楽しいひとときを一緒に過ごしましょう」と呼びかけています。世界が不安定さを増す今だからこそ、市民が集い、平和を願います。語り合う場所が大切です。音楽を媒介にし

開催概要

- ◆とき 12月14日（日）午前10時～正午
- ◆ところ 清色コミセン（入来町・東交番奥）
- ◆出演 チャッピーズ
- ◆内容 歌って踊る体操コーナー／野菜販売／豚汁・ごはん提供
- ◆参加費 300円

## こちららの相談所

(No. 631)  
携帯 080-3996-0237  
(井上)  
なんでもご相談ください。

て、「陽が当たらず道路が湿ったまま」「寒い・暗い」と住民から相談が寄せられました。

## 竹林の影響で寒い日々…相談から伐採実現！

指月ハイツ第2公園そばの竹林について

昨年同様の相談があり、市は見回りと必要な伐採で対応してきましたが、今年は状況悪化のため、現地調査と伐採の再要望を行いました。

相談者からは「本当に助かりました」と喜びの連絡が入りました。暮らしの困りごとは、声を届けることで前進します。今後も民報きずなは市民の声を市政につないでいきます。



## 国際交流センターで心弾むサックスの響き

### レ・コピヌ 四重奏が薩摩川内へ

「クリスマスに響くサックスの音色」

薩摩川内市に、心華やぐ音楽の贈り物が届きます。サクソフォン四重奏団「レ・コピヌ」が、この冬の夜に温かなコンサートを届けてくれます。色彩豊かなサックスの音色がホールに満ち、日常の喧噪を忘れ

させるひとときとなりそうです。

です。

チケットには名前や連絡先の欄があり、障がい者手帳所持者の記入欄もつくられるなど、市民に寄り添った工夫もされています。

主催は地域未来ネットワーク・せんだい、市教育委員会や福祉協議会などが後援しています。

年の瀬に、音楽で自分へのごほうびはいかがでしょうか。サクソクス四重奏の響きが、きつと心に暖かい灯りをともしてくれるはず

日時：12月25日（木）18:30開演（18:00開場）  
会場：薩摩川内市国際交流センター・コンベンションホール  
料金：一般2千円／高校生以下1千円／障がい者手帳所持者は半額  
問い合わせ：かけはしさん 080-5200-6858  
井上市議（チケット預かりあり）



(1面から続く)

合意した「互いに脅威とならない」という原則を守ることに。日本が軍拡をやめること、中国も力を背景にした現状変更を避けることです。第二に、尖閣問題などの対立は対話で解決するとした約束を具体化すること。危機管理の仕組みの強化や、互いに挑発しないルールづくりを提案しています。第三に、ASEANが提唱する包摂的な地域枠組みを日本と中国が協力して支えることで

す。北東アジアで対立が激しくなるなか、排除ではなく全ての国を包み込む平和秩序が必要だとしています。

こうした提案は、国際政治の理論ではなく、地域の暮らしの視点にも立っています。薩摩川内の産業、介護教育を支える人々、友好都市とのつながり、農産品の輸出先、観光客―いずれも平和と安定の上に成り立っています。だからこそ、外交の緊張を避け、対話

で解決する道を求めることは、私たちの生活を守るための現実的な選択なのです。民報きずなの視点から言えば、国のかじ取りが誤れば、影響を受けるのは地域の働く人々です。平和外交を求める党の提案は、国政の話にとどまらず、地方の暮らしを守る方向性を示しています。「外交は生活の問題である」という認識を、いまこそ地域から広げていくときではないでしょうか。



## エプロンおばさんの簡単フッキング (685)

### マッシュ里芋

材料 (1人分) .....

里芋 (中) 3個 (200g)、すりおろしたユズの皮適量

#### 作り方

- ①①里芋は洗って鍋に入れ、かぶるくらいの水を入れて水から皮ごとゆでる。
- ②里芋に竹串がスッと通ったら火を止めて粗熱を取り、皮をむいて温かいうちにフォークの背などでつぶす。
- ③②を器に盛り、ユズの皮を散らして、しょうゆ適量を落とす。

No. 62



## シネマ太郎の映画評と案内 野火 (1959)



野火



ネタニヤ調書  
汚職と戦争

フィリピンでの自身の戦争体験を描いた大岡昇平の小説「野火」を市川崑監督が映画化。1959(昭和34)年の作品です。戦場で極限状態となった兵士を描いた衝撃的な内容で、当時、多くの賞を受賞。終戦80年企画として11月末に2回だけ上映されました(ガーデンズシネマ)。芥川也寸志による莊重な音楽の後、田村一等兵(船越英二)の顔がスクリーンいっぱいに出されまです。その顔を誰かがいきなり平手打ち。痛くないのか、何も感じないような田村の表情。フィリピン戦線での小部隊。肺を病む田村を持て余した部隊長は野戦病院へ行くよう命じますが、病院は食糧不足が、病院は食糧不足を理由に田村を受け入れません。やむなく病院近くの路上に体を投げ出すように横たわるしかないのです。やがて病院は米軍の攻撃を受け、這いずるように逃げた田村は助かるのですが、後はあてもなく、ジャングルや乾いた大地をさまようばかり。思いがけず小さな集落に出くわしますが、突然、現れた若い男女をみて混乱し、銃を発砲。田村は放心状態。もう人間の感情が枯渇しているようなのです。骨と皮のような体を引きずるようになり、それでも進むと、別の部隊と遭遇。久しぶりに人と話した田村は同行しますが、すぐに米軍の砲撃を受け、わずかな兵士が生き残ります。草などを食べながら、ただ座して死を待つばかり。そして、人間の尊厳を踏み越えるような陰惨な出来事が起こるのです。モノクロ映像で、感情を入れないというのか、とても乾いた感じで描いていて、恐ろしさが出てきます。映画館のスクリーンでみるべき映画だと思えますが、配信で見ることができません。さて気になる次の映画は、ドキュメンタリー映画「ネタニヤフ調書 汚職と戦争」(2/25、天文館シネマパラダイス)です。



←中俣先生のブログはこちら

## 中俣先生のつれづれなるままに (816)



いちき串木野市議選で、いたにさんが見事当選した。さつま町議選では候補者を落としただけに、久しぶりの快挙に元気が出た。いちき串木野市の党員のみなさん、後援会のみなさまの昼夜を分かたず奮闘された姿に敬意を表したい。なによりも井上選対委員長は努力には頭が下がる。私は二つの選挙とも思うように活動できなかったが、それでも自分の努力が報われたようにうれしかった。いちき串木野には二回出かけた。二回目陣式では、田村さんの横に立つにいたにさんの姿に涙が出た。まるで、にいたにさんが、叱られて、担任の先生の横に立つ生徒の姿と重なったからだ。井上委員長の手を振るようという合図にも、緊張のせいかわずかに手が上がった。そばに行くと手をもち上げ大きく振ってあげたい思いだった。しかし、話す内容は、回を重ねるごとに重みを増していった。投票翌日には、何べんもパソコンで票を確認した。最後は北支部の支部長代行に確認する始末。その日は新聞が休刊日。翌日の新聞が待ち遠しかった。朝4時15分。きっちり届いた新聞。当確が出ている。うれしかった。選に出たHさんは、元担任の父親で、月に数回抗議の電話を受けた方だった。あけく果ては、家庭訪問さえ拒否された。掲げた政策は私の胸に響くものだっただけに、どこで今でもボタンを掛け違ったのか、にいたにさんの一日が過ぎた。(詩愛好家)